

いつまでも自分らしく暮らせる地域に

1 課題や困り事など 生活支援ニーズの把握



2 支援者の 発掘と育成



生活支援 コーディネーター



3 生活支援サービスの立ち上げ 居場所づくり支援



4 各種団体との連携



市では、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で過ごせるよう、生活支援コーディネーターを中心に、地域での介護予防や生活支援などの支え合いの仕組みづくりに取り組んでいます。

誰もが生き生きと暮らせるように

日本の高齢化率は年々上昇しており、総人口に占める65歳以上の割合は令和元年で28・4パーセントとなっています。

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に到達する令和7年には、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になるといわれており、今後はさらに、医療や介護の需要が増加することが見込まれています。

この超高齢社会において、介護が必要な状態になっても、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らせるようにするためには、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が必要とされています。

地域包括ケアシステムを構築するために重要な役割を担っているのが「生活支援コーディネーター」です。

生活支援コーディネーターとは

生活支援コーディネーターは、地域の高齢者が抱える日常の困り事・悩み事を把握し、生活の支援と介護予防サービスを充実させるため、地区社会福祉協議会や各地域の高齢者クラブなどのさまざまな団体と連携して、活動を行います。

3人のコーディネーターを配置

市では、市内全域を取りまとめる生活支援コーディネーター(第1層)を1人と、各地域を担当する生活支援コーディネーター(第2層)を2人配置しています。現在、西部南圏域(成田・中郷地区)

と、西部北圏域(ニュータウン・はなのき台・八生・豊住地区)に1人ずつ配置されています。

また、そのほかの地域についても、配置に向けて準備を進めています。

地域に密着した活動

地域の支え合いを推進

住民同士が支え合い、地域の課題を解決していくことができる仕組みをつくるため、自治会やボランティア団体などと連携して、地域ボランティアの養成・支援、ネットワークづくりを行っています。

地域の状況を把握

高齢者を支援する上で必要な地域ボランティアの人数や高齢者の活動の場などを把握するため、地区社会福祉協議会や民生委員などから情報を収集しています。

現状に合わせた取り組みを実施

新型コロナウイルス感染症の拡大など、刻々と変わる生活状況に合わせた取り組みを行っています。
○移動販売の促進：日常の買い物に不自由している高齢者のために、移動販売事業者との調整を行い、買い物が行えるように支援しています

○地域のための働きかけ：地区社会福祉協議会や高齢者クラブなどに働きかけ、住民を支援するための活動を実施しています。
これまでに、高齢者のためにウォーキング大会を開催したほか、子どもたちのマスクや防犯用の竹笛を作成するなどの取り組みを行いました

○WIITHコロナ手帳の作成：外出自粛による高齢者のフレイル



地区社会福祉協議会の皆さんと共に竹笛を作成

(虚弱)を予防するため、簡単な体操や健康チェック表が掲載された「WIITHコロナ手帳」を作成しました。手帳は介護保険課(市役所議会棟1階)にあります。
また、市ホームページ(https://www.city.narita.chiba.jp/kenko_fukushi/page0133_00048.html)からダウンロードすることもできます

高齢者の居場所づくり

介護予防の一つとして、市で普及を行っている「なりたいきいき百歳体操」のグループの立ち上げなど、高齢者の居場所づくりを支援しています。

市内の団体が連携する

協議体

生活支援コーディネーター、国際医療福祉大学、介護事業所、ボランティア、自治会などが参加する「協議体」を設置しています。協議体では地域の課題を共有し、生活支援などの仕組みづくりを行うための会議を開催しています。
また生活支援コーディネーターは、協議体の中のさまざまな団体と連携することで、幅広い分野での支援を行っています。

※くわしくは介護保険課(☎20・1545)へ。

私たちに相談してください

地域の悩み事などを相談したい人や支え合いの活動に興味がある人は、生活支援コーディネーターに声を掛けてください。



松田 裕児さん

成田市社会福祉協議会
(赤坂1-3-1)
☎27-7755
担当=市内全域

これからの人生100年時代には、地域の支え合いの仕組みをつくるのが大切です。子どもから高齢者まで、誰もが暮らしやすく、活躍できる地域社会の構築を見据えて、これからもさまざまな取り組みを行っていきます。



大麻 喜久美さん

西部南地域包括支援センター
(新町1037-63)
☎23-7151
担当=西部南圏域(成田・中郷地区)

感染症の拡大防止により人とのつながりが減った今だからこそ、新たなつながりの形を地域の皆さんと考える時だと思っています。地域の「ちょっとした工夫や知恵」を教えてもらいながら、つながりのある地域づくりを進めていきたいです。



坂本 由紀子さん

西部北地域包括支援センター
(橋賀台1-16-3)
☎29-5005
担当=西部北圏域(ニュータウン・はなのき台・八生・豊住地区)

地域には住民同士のつながりから生まれた「お互いさま」がたくさんあります。身近なところから生まれた支え合いの芽は地域の力となります。世代や分野を超えて、地域がつながり支え合えるよう、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思います。